



国家卫生计生委应急办公室

(突发公共卫生事件应急指挥中心)

上海が輸入性黄熱確診患者1名を報告

卫生计生委应急办

www.nhfpc.gov.cn 2016-03-18

来源：

上海市衛生計生委は、**03月18日**、同市で国外からの輸入性黄熱確診患者**1名**が報告されたと発表した。患者は、江蘇省人の**46歳**男性で、アンゴラの首都ルアンダに出稼ぎに出ている。

患者は、アンゴラにいた**03月05日**（北京時間）に発熱が現れ、**03月06日**航空機によりドバイ経由で**03月07日21:00**に上海に到着したが、入国時の赤外線体温測定の結果は正常であった。入国後に自ら病院を直接受診した。

03月14日、上海市疾病管理センターが患者のサンプルを調べたところ、陽性となり、直ちに再検査のためにサンプルが中国**CDC**に送られた。**03月17日**、中国**CDC**が核酸を検査した結果も陽性となった。その後、上海市衛生計生委は専門家を組織し、患者の疫学史や臨床症状と中国**CDC**の患者サンプルへの再検査の結果をもとに、当該患者を黄熱の輸入性患者と確診した。現在、患者には肝機能障害がでていますが、相対的に病状は安定しており、積極的な治療を受けている。

上海市衛生計生委は、上海市**CDC**や上海市公衆衛生臨床センター、上海市入出国検査試験検疫局等関連の専門家を組織し、当該輸入症例の持ち込む感染リスクに対する評価を行った。専門家たちは、黄熱は蚊が媒介する伝染病に属しており、主にシマカに咬まれることにより感染するものであり；上海市にはネッタイシマカは棲息していないため、我が国のシマカ分布主要地区とはなっておらず、また、上海市の気温は低く蚊の活動期には入っていないことから、今回の輸入性患者が更なる感染拡大を引き起こすリスクは極めて低いとしている。

現在、上海市衛生計生委は、国家衛生計生委と中国**CDC**の指導下で、関連診療方案と予防管理の要求に基づき、積極的に患者の治療に当たっており、疫学調査や媒介蚊の緊急観測と愛国衛生運動、健康教育などの活動をしている。

黄熱や、防ぐことも制御することも可能だが、黄熱の流行地区に行く人たちは渡航**10日**前までに黄熱ワクチンの接種をしなければならない。

健康問答：

1. 黄熱とは？

黄熱 (**Yellow Fever**) とは、黄熱ウイルスが引き起こす蚊が媒介する急性感染症で、潜伏期は一般に**3日～6日**とされている。黄熱は、中南米とアフリカの熱帯地区で流行している。黄熱は、一年を通じて発生が可能だが、**3～4月**に症例が比較的が多い。黄熱の主な臨床症状は、発熱や黄疸、出血などであり、ヒトに感染後、約**5～20%**に臨床症状が現れ、少数には重症化或いは死亡することがある。現時点、黄熱に対する特異な治療方法はなく、対症療法及び支持治療が主となる。『中華人民共和国国境衛生検疫法』の規定をもとに、黄熱は**法定検疫伝染病**とされている。黄熱病ワクチンの接種が黄熱感染を予防する主な手段となっているが、蚊対策もまた黄熱感染を有効に予防できる。

2. 黄熱の感染源は？

黄熱には、都市型とジャングル型の**2種類**がある。都市型の主要感染源は、患者及び特に発症**4日**以内の潜伏感染者（宮本注：原文は『**隠性感染**』）だ。ジャングル型の主要感染源は、サル及びその他の霊長類となり、感染した動物中からはウイルスが分離される。黄熱の潜伏感染と軽症患者は重症患者より比較的多く、これらの患者は、黄熱の感染において極めて重要な作用を持っている。

3. 黄熱の感染経路は？

黄熱は、蚊に咬まれることで感染する。都市型は、ネッタイシマカが唯一の媒介蚊となり、ヒト～ネッタイシマカ～ヒトの形で流行する。ジャングル型の媒介蚊の種類は、比較的複雑で、アフリカシマカやシンプソンシマカ、ヘマゴグス属 (**Haemagogus** 属：原文では『**趨血蚊属 (Hemagogus)**』となっているが**H**の後に**a**が抜けている？『**趨血**』とは「血を吸う」という意味です)、煞蚊属 (**Sabethes** 属：中国語の最初の**2文字**は「ピンインは **shàwén**、かな表記するとシャウエン」で、発音からこの蚊の

中文名称となったようです) などが、サル〜アフリカシマカ或は趨血蚊属等〜サルの形で循環感染する。ヒトは、ジャングルに入ってから活動中に感染する。蚊が、患者或はサルの血を吸血後 9〜12 日で伝染性を備え、死ぬまでその体内にウィルスを携帯、卵にもウィルスが伝えられる。

4. 黄熱の感染経路は？

人類は黄熱ウィルスに対して感染しやすい。都市型においては、成人の大多数が感染後に免疫を獲得しているがゆえに患者の多数は児童となっている。ジャングル型においては、患者の多数が成年男性である。感染後に持久的免疫力を獲得し、再感染したものは見つからない。

5. 黄熱の臨床症状は？

黄熱の潜伏期は一般に 3〜6 日とされている。その臨床症状は個体差が非常に大きく、軽度の自己制限性のものから致死性のものまでいろいろある。典型的な臨床過程は、以下の 4 期に分けられる：

- (1) ウィルス血症期：発症は急激で、悪寒や 39〜40 度の発熱、相対的徐脈が見られる。激しい頭痛や背中痛み、全身の筋肉痛、吐き気や嘔吐。結膜や顔面の充血、鼻血。蛋白尿が見られることもある。症状は 3〜5 日持続する。
- (2) 緩解期：感染して発症してから 3〜5 日後に 12〜24 時間の緩解期が現れ、体温が下がり、頭痛が消えて全身の状態は基本的に改善する。この時期体内のウィルスが一掃され、血中には日感染性免疫の複合物が見つかることがある。軽度の患者はこの期間に治癒することがある。
- (3) 肝腎機能障害期：3〜8 日続くが、約 15〜25%の患者は、緩解期の後にこのステップに突入している。体温が再び上昇し、頻繁な嘔吐や上腹部痛等、全身症状が改めて出現する。黄疸が現れ、徐々にひどくなり、点状出血や斑状出血、鼻血、広範な粘膜出血、酷い場合には消化管出血などの出血症状が現れる。腎機能異常で、尿量が減少し、蛋白尿が出る。心臓の損傷は心電図により ST-T 異常が見てとれ、心臓の急性拡張が現れることがある。脳水腫が現れることもあり、脳脊髄液中のタンパク質レベルが上昇するが、白血球数は高くない。高血圧、頻脈、ショック、難治性の吃逆は予後不良を呈する。この後、患者の約 20〜50%が発症後 7〜10 日で死亡している。
- (4) 快復期：この期にある患者は極度に疲労衰弱し、2〜4 週間続く。また、或る報道では、患者が快復期にも死亡したとされており、一部に錯乱が見られる。トランスアミラーゼの上昇は快復後数か月持続することがある。一般には後遺症は残らない。

6. 黄熱の予防措置

- (1) 感染源の制御：入国ポイントでの検疫と健康教育を強化し、流行地区から来た市民や友人は入国時に速やかに健康状態を申告し、同時に入国後に個人の蚊対策をとることで、黄熱の輸入リスクと蚊が媒介する類似感染症の国内での感染リスクを低減する。
- (2) 感染ルートの切断：気候の温暖化と媒介蚊の活動時期が到来するにつれ、市民は住居周辺の環境で蚊が発生しないように清掃をすることで、蚊が媒介する感染症リスクを低減する。国外に旅行或いは仕事に出る人は、事前に蚊の予防対策をしておくこと。
- (3) 感染しやすい人たちの保護：黄熱流行地区や黄熱感染の可能性が既に知られている或は予測される地域に入らねばならない人については、9 か月以上の児童や成人は、黄熱ワクチンの通常接種をして免疫をつけて予防すること。免疫力は 10 年以上持続する。

(上海市衛生計生委出稿：2016 年 03 月 18 日)

<http://www.nhfpc.gov.cn/yjb/s3578/201603/3b7f05fb779e4b1fa03d43e9089b3bfe.shtml>

..... 以下は中国語原文

上海市报告一例境外输入性外来就诊黄热病确诊病例

卫生计生委应急办

www.nhfpc.gov.cn 2016-03-18

来源：

上海市卫生和计划生育委员会 3 月 18 日通报，上海市报告一例境外输入性外来就诊黄热病确诊病例。

患者，男，46 岁，江苏省人，劳务输出至非洲安哥拉首都罗安达工作。患者于 3 月 5 日（北京时间）在罗安达出现发热，3 月 6 日乘飞机经迪拜转机，于 3 月 7 日晚 21 时抵达上海，入境时红外线测温结果体温正常。入境后直接主动到医院就诊。3 月 14 日，上海市疾病预防控制中心检测患者标本为黄热病毒核酸初筛阳性，立即将标本送中国疾病预防控制中心复核检测。3 月 17 日中国疾病预防控制中心报告黄热病毒核酸检测结果阳性。随后，上海市卫生计生委组织专家组根据患者流行病学史、临床表现和中国疾病预防控制中心对患者标本的复核检测结果，确诊该病例为输入性黄热病病例。目前，患者出现肝功能损害，但总体病情稳定，正在积极治疗中。

上海市卫生和计划生育委员会组织上海市疾病预防控制中心、上海市公共卫生临床中心、上海市出入境检验检疫局等相关专家对该输入病例带来的传播风险进行了评估。专家们认为，黄热病属于蚊媒传播疾病，主要通过埃及伊蚊叮咬感染；上海市无埃及伊蚊且不属于我国伊蚊主要分布地区，目前上海气温较低，未进入蚊媒活跃期。因此，此次输入病例引发传播并进一步扩散的风险极低。

目前，上海市卫生和计划生育委员会在国家卫生和计划生育委员会和中国疾病预防控制中心的指导下，正积极按照相关诊疗方案和防控要求，积极治疗患者，落实流行病学调查、蚊媒应急监测、爱国卫生运动和健康教育等各项防控措施。

黄热病可防可控，公众前往黄热病流行区需要提前 10 天接种黄热病疫苗。

健康问答：

1、什么是黄热病？

黄热病 (yellow fever) 是一种由黄热病毒引起、经蚊媒传播的急性传染病，潜伏期一般为 3-6 天。该病主要在中南美洲和非洲的热带地区流行，亚洲的热带国家也有分布。黄热病全年均可发生，3-4 月份病例较多。黄热病临床症状主要表现为发热、黄疸、出血等，人感染后，约 5%-20% 出现临床症状，少数出现重症并死亡。目前无特异性治疗方法，主要以对症治疗及支持治疗为主。根据《中华人民共和国国境卫生检疫法》规定，黄热病为法定检疫传染病。接种黄热病疫苗是预防黄热病感染的主要措施，落实防蚊措施也可有效预防黄热病感染。

2、黄热病的传染源是什么？

黄热病可分为城市型和丛林型两种。城市型的主要传染源为病人及隐性感染者，特别是发病 4 日以内的患者。丛林型的主要传染源为猴及其他灵长类，在受染动物血中可分离到病毒。黄热病的隐性感染和轻型病例远较重症患者为多，这些病例对本病的传播起着极为重要的作用。

3、黄热病的传播途径是什么？

黄热病通过蚊叮咬传播。城市型以埃及伊蚊为唯一传播媒介，以人-埃及伊蚊-人的方式流行。丛林型的媒介蚊种比较复杂，包括非洲伊蚊、辛普森伊蚊、趋血蚊属 (Hemagogus)、煞蚊属 (Sabethes) 等，以猴-非洲伊蚊或趋血蚊属等-猴的方式循环。人因进入丛林中工作而受染。蚊吮吸病人或病猴血后经 9-12 天即具传染性，可终生携带病毒并可经卵传递。

4、黄热病的易感者有哪些？

人类对黄热病毒普遍易感。在城市型中因成年人大多因感染而获得免疫，故患者以儿童为多。在丛林型中则患者多数为成年男性。感染后可获得持久免疫力，未发现再感染者。

5、黄热病的临床表现是什么？

黄热病的潜伏期一般为 3-6 天。本病临床表现差异很大，病情可从轻度自限性到致死性感染。典型临床过程可分为以下 4 期：(1) 病毒血症期。急性起病，寒战、发热，可达 39-40℃，相对缓脉。剧烈头痛、背痛、全身肌肉痛，恶心、呕吐。结膜和面部充血，鼻衄。可有蛋白尿。症状持续 3-5 天。(2) 缓解期。感染期发病的 3-5 天后出现 12-24 小时的缓解期，表现为体温下降，头痛消失，全身基本状况改善。此期体内病毒被清除，血中可以查到非感染性免疫复合物。轻度患者在此期可以痊愈。(3) 肝肾损伤期。此期持续 3-8 天，约 15%-25% 患者自缓解期后进入此期。体温再次升高，全身症状重新出现，频繁呕吐，上腹痛等。出现黄疸并逐渐加深，出血表现如瘀点、瘀斑、鼻衄、粘膜广泛出血，甚至腔道大出血。肾功能异常，尿量减少，蛋白尿。心脏损害心电图可见 ST-T 段异常，少数可出现急性心肌扩张。可出现脑水肿，脑脊液蛋白升高但白细胞不高。高血压，心动过速，休克，顽固性呃逆提示预后不良。此期患者约有 20%-50% 在发病后的 7-10 天死亡。(4) 恢复期。此期患者极度疲乏虚弱，可持续 2-4 周。也有报道患者在恢复期死亡，部分是由于心律失常。转氨酶升高可持续至恢复后数月。一般无后遗症。

6、黄热病的预防措施

(1) 控制传染源。强化口岸检疫和健康教育措施，来自疫区的市民朋友应在入境时及时做好健康申报，并建议在入境后采取个人防蚊措施，降低黄热病的输入风险和蚊媒类传染病的本地传播。

(2) 切断传播途径。随着气候变暖和蚊媒活跃期的到来，建议市民朋友及时清除居家及周边环境的蚊虫滋生地，降低蚊媒传染病传播风险。境外旅游或工作，应提前做好防蚊准备。

(3) 保护易感人群。如需进入黄热病疫区、已知或预测有黄热病疫情活动的区域，9 月龄以上儿童和成年人应常规接种黄热病疫苗进行免疫预防，免疫力可持续达 10 年以上。(上海市卫生计生委供稿，2016 年 3 月 18 日)